

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 サステイナブル・ツーリズム推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課 サステイナブル・ツーリズム推進係

電話番号：058-272-1111(内3915)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,000 千円 (前年度予算額： 25,000 千円)

<財源内訳>

※R3.3月補正額

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	25,000	25,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	20,000	0	0	0	0	0	0	0	20,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

世界中でSDGsへの関心が高まる中、本県が世界から「選ばれる旅先」となるためには、サステイナブル・ツーリズム(持続可能な観光)の推進が不可欠である。

そこで、地域関係者が一体となった持続可能な観光地域づくりに資する取組を重点的に支援し、誘客促進及び観光消費額の拡大につなげる。

(2) 事業内容

■サステイナブル・ツーリズム推進事業 (10,000千円)

地域の利害関係者が一体となった持続可能な観光地域づくりに資する取組への助成

■木曽川中流域観光振興推進事業 (10,000千円)

木曽川中流域の新たな観光資源の発掘、ブラッシュアップ及び流域市町の連携により周遊性、滞在時間、消費額を増加させる取組への助成

【補助対象者】

- ① 市町村
- ② 観光協会等（観光協会、観光振興に取り組んでいる団体）
- ③ 日本版DMO等
※観光庁の「日本版DMO」登録法人、「日本版DMO候補法人」登録法人、
「日本版DMO候補法人」登録申請予定の法人
- ④ 次に掲げる者のいずれかで構成する観光関係協議会等
 - (1) 複数の市町村
 - (2) 市町村及び観光関係事業者
 - (3) 複数の観光関係事業者
(ただし、市町村から助成又はそれと同等の支援を受けていること。)
 - (4) その他知事が補助事業者として特に認める者

(3) 県負担・補助率の考え方

- サステイナブル・ツーリズム推進事業
補助率：2/3、上限：500万円
- 木曾川中流域観光振興推進事業
補助率：1/2、上限：500万円

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	20,000	・サステイナブル・ツーリズム推進事業 ・木曾川中流域観光振興推進事業
合計	20,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
- 3 地域にある魅力と活力づくり
- (2) 次世代を見据えた産業の振興
- ④ 観光産業の基幹産業化

(2) 国・他県の状況

岐阜県独自の事業である

(3) 後年度の財政負担

新型コロナウイルスの影響による緊急支援事業のため、単年度事業である

(4) 事業主体及びその妥当性

複数の事業者による地域一体的な取組を支援するものであり、妥当

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	サステイナブル・ツーリズム推進事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村、観光協会、観光関係協議会、観光事業者
補助事業の概要	地域が一体となった持続可能な観光地域づくりに寄与する取組を支援
補助率・補助単価等	定率 (内容) 補助率2/3、上限5,000千円 (理由) 持続可能な観光地域づくりに向けた取組みを促進するため、「清流の国ぎふ」観光回廊づくり推進事業費補助金の「観光資源魅力向上推進事業」と同等の上限額を設定
補助効果	観光誘客及び観光消費額の増加
終期の設定	終期 令和5年度

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか 地域関係者が一体となり、地域資源の「保全と活用」両輪での活動による持続可能な観光地づくりを進めることで、周遊性・滞在時間及び観光消費額の拡大を図る。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①観光消費額	/	1,721億円	2,400億円	2,900億円	3,300億円	52.2%
②観光入込客数 (実数)	/	3,842万人	4,000万人	4,800万人	4,900万人	78.4%

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	/	/	/

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	
令和 3 年度	<p>地域関係者の合意形成の下、持続可能な地域づくりに資する取組や、広域連携による木曽川中流域の周遊性を高める取組に対し、支援を行った。</p> <p>指標① 目標：1,900億円 実績：1,721億円 達成率：90.6 %</p>
令和 4 年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>世界中でSDGsへの関心が高まる中、本県が世界から「選ばれる旅先」となるためには、サステイナブル・ツーリズムの推進が不可欠。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	<p>持続可能な地域づくりに対する地域関係者の理解促進や合意形成が図られている。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>県事務所による事業内容の確認、実地検査を行うことで、作業の効率化が図られている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 世界中でSDGsへの関心が高まる中、本県が世界から「選ばれる旅先」となるためには、サステイナブル・ツーリズムの推進が不可欠。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 新型コロナウイルスの影響による緊急支援事業のため、単年度の事業とする。</p>
